



桜風

合志市立西合志中央小学校学校だより

校訓【健康 工夫 協同】

令和5（2023）年12月8日 第8号

文責：校長 佐藤 正貴

学校生活を送る上で・・・。

一般的に多くの人はこの世に生を受けてから、まず、家族の中で過ごしていきます。家族というコミュニティの中で、家族としてのルールを学びながら成長していきます。そこから同年代の子どもを持つ親の集まり、保育園や幼稚園などコミュニティが広がっていきます。そのコミュニティは、様々な家族のルールの中で育った子どもたちが、保護者から離れて生活をする時間となります。当然ながら育った環境が違うため、考え方や価値観も違います。その違いに子どもたちが触れた時、新たな発見や自分と同じ価値観を見つけて気持ちが通じ合う事もあれば、ぶつかり合ってトラブルになることもあります。

学校とは、こうした状況を踏まえながら、人との関係を学んだり、学力をつけたりしながら、自分自身の将来を決定していく準備をする場です。

では、違う環境で育ち、違う考えや価値観を持った子どもたちが集まる中で、それぞれが将来の生き方を選択することにつながる教育活動の成立条件とは何でしょうか？。言い換えれば、違う生活基盤で暮らしている約800名の子どもたちが、共通して守るべき学校のルールは何かということです。

私は、「人の迷惑になることはしないこと」だと考えています。その基本は、昔から言われていることではありますが「自分がされて嫌なことは、人にはするな」ということではないでしょうか。このことに基づいた生き方をしていくためには、自分の言動が相手にとっての不快感につながったり、今やろうとしていることの妨げになったりしていないかということ想像できる力を高めていく必要があります。この想像する力を他者との関わり方を通して学び続ける場所が学校です。多くの事柄を経験することで、きっと自分の言動が他者に及ぼす影響を想像できる力が高まり、「人の迷惑になることはしない」生き方ができるようになると思います。

しかし、それは学校だけでなし得ることはできません。なぜなら、子どもたちの生活基盤は家庭だからです。人との関わりを学ぶスタートは家族との関わりです。その家族のルールは、子どもにとって守るべき絶対的なルールとなっています。だからこそ、「人に迷惑をかけない生き方」とはどういうことなのか、これから子どもたちが生活経験を積み重ねて、考えていくたびに、家庭も学校も子どもたちの言動のどこに課題があるのかを具体的に示しながら、一緒に考えていく必要があるのではないのでしょうか。

中央小マルシェ

以前は至心会主催の「中央小祭り」が盛大に行われていたそうです。ここ数年、コロナ禍で実施ができませんでした。今回、至心会のイベント・企画委員さんに「中央小マルシェ」として新たに実施していただきました。以前の実施に関して理解している保護者・職員もなく、準備は大変だったと思います。しかし、役員の皆様方にご尽力頂きながら、子どもたちは楽しい半日を過ごすことができました。開催にあたり企画・運営を担っていただいた至心会の皆様、また子どもたちを楽しませるブースを開いてくださった民生児童委員の皆様、西部クリーン様、ご協力ありがとうございました。



行列ができる焼き芋店

クリーンアクション！

西合志中学校生徒会、中央小、第一小の児童が合同会議を行い、清掃活動場所を決めて実施しました。中学生の指導のもと、意義のある活動ができました。児童生徒が企画・運営を担い、地域に貢献する活動は、今後、充実した活動になればと願っています。

